

## 編集 後記

記録的な猛暑も9月に入ってようやく少し落ち着き、夜は虫の音が聞こえるようになってきました。世界中、どこに行っても“Climate change”といわれていますが、気候や災害が、健康に影響を与える要因としてのインパクトが大きくなってきているような印象です。

さて、65巻9号をお届けします。本号では、原著2編、公衆衛生活動報告1編、資料1編を掲載しています。

原著は女性の過剰な飲酒に関連する社会的要因の離島における探索、また、大都市における産後再喫煙の現状を母子保健事業の機会を用いて検討した論文で、規模は大きく異なりますが、住民ベースで地域の状況を記述し、今後の公衆衛生活動に寄与する内容となっています。公衆衛生活動報告では、まさに公衆衛生の最前線での活動と考えられる、保健所における腸管出血性大腸菌O157による食中毒への対応が詳細に記載されています。感染症疫学の実践報告としてとても貴重なものと思われました。さらに資料では、主観的幸福感を測定する簡便な尺度について、日本人の性別、年代別の参照点を提示しており、今後、この尺度を用いる上での貴重な資料となっています。このように、本号の内容は、食中毒対応という公衆衛生活動の実例から、地域で収集したデータを活用した研究、さらには今後の公衆衛生研究などに活用できる尺度の紹介と、「公衆衛生」を紹介するときに役立つような、バランスの良い構成になっています。

現在、編集委員会では、10月の総会で表彰する優秀論文賞の選考を、第64巻（2017年）に掲載された論文を対象に行っており、今後の公衆衛生、特に実務家にとって有益な論文を、学術面に偏ることなく、チームで成し遂げた活動など、実務という視点からも評価しております。原著のみならず、公衆衛生活動報告、資料も対象となっておりますので、会員の皆さまには、日頃の研究成果、またさまざまな公衆衛生活動など、特に、総会で発表した内容を、ぜひ投稿していただければと思います。

（鈴木孝太）

## 次号予告（第65巻・第10号）

### 原著

地域包括支援センター職員の地域ケア会議運営の課題と運営の工夫……………原田小夜，他  
 壮中年期における野菜摂取量と食行動，食態度，食知識・スキル，および周囲からの支援との関連……………小澤啓子，他  
 母親を対象とする地域活動の機能とそれに関連する先行要因と活動形態の検討……………川崎千恵

### 資料

2015年都道府県別生命表における長野県男性の平均寿命全国2位後退に対する年齢別死亡率の影響について……………小林良清